

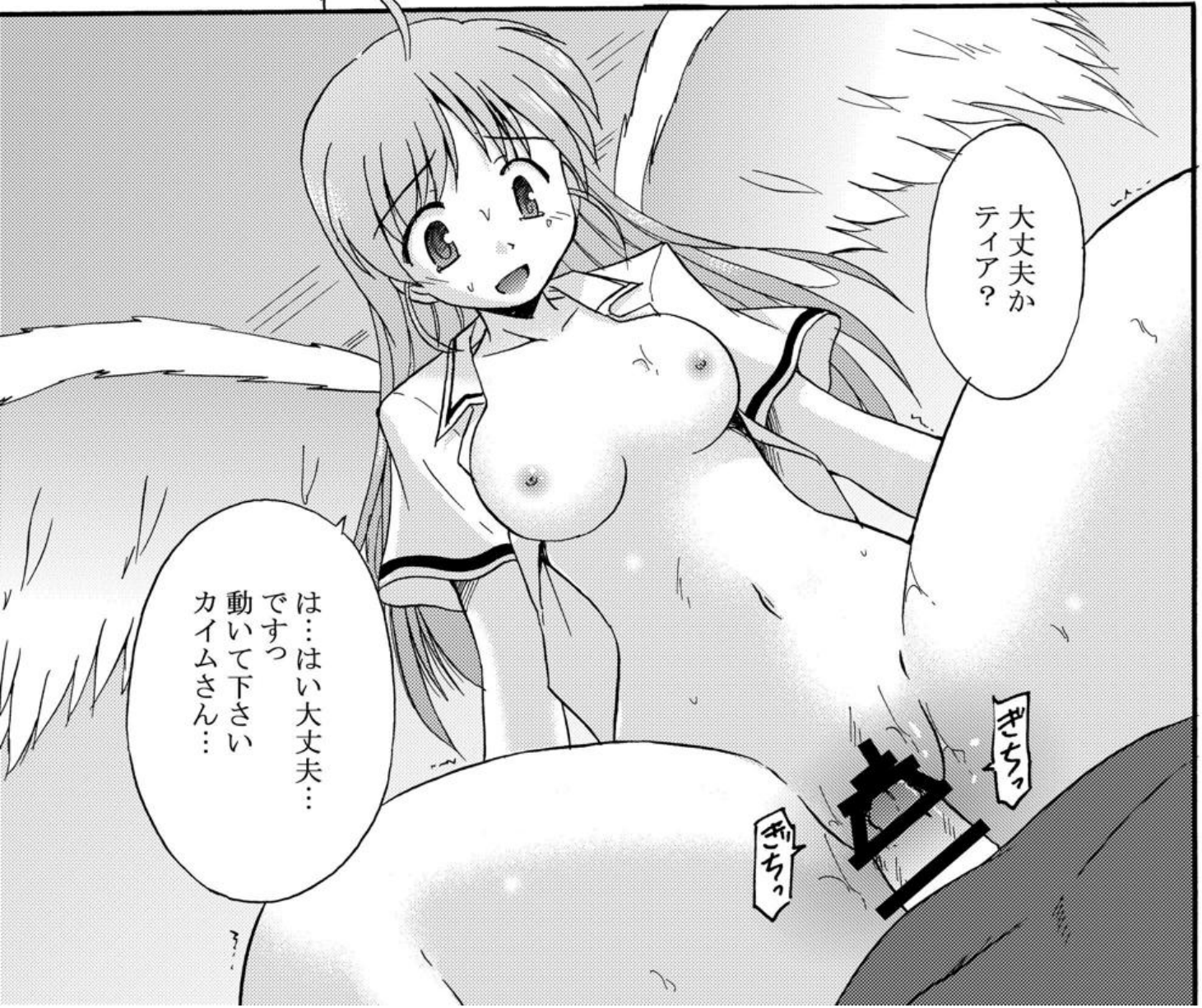
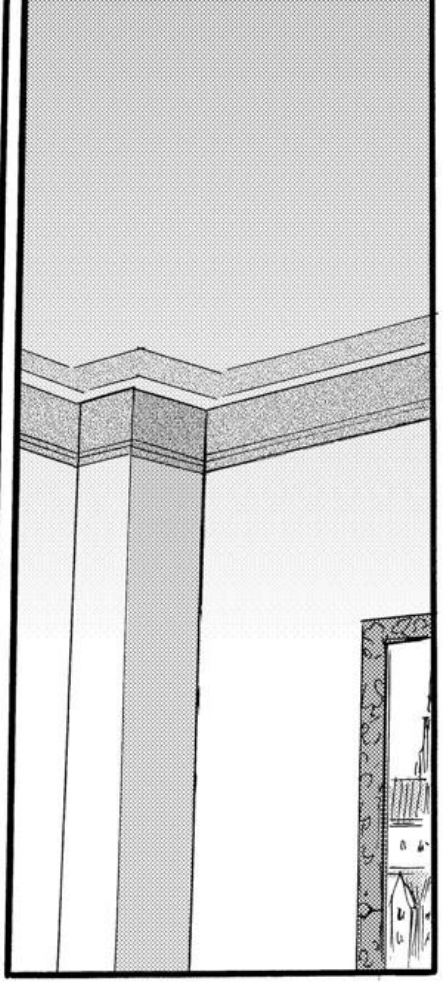
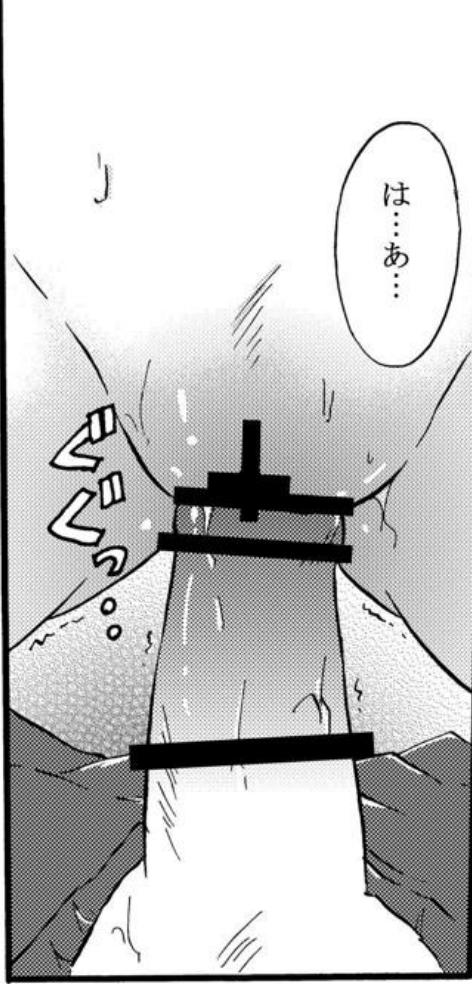
R-18
For Adult Only



機翼のユースティア FANBOOK

LIFT THE WINGS

Cool Palace August 2011

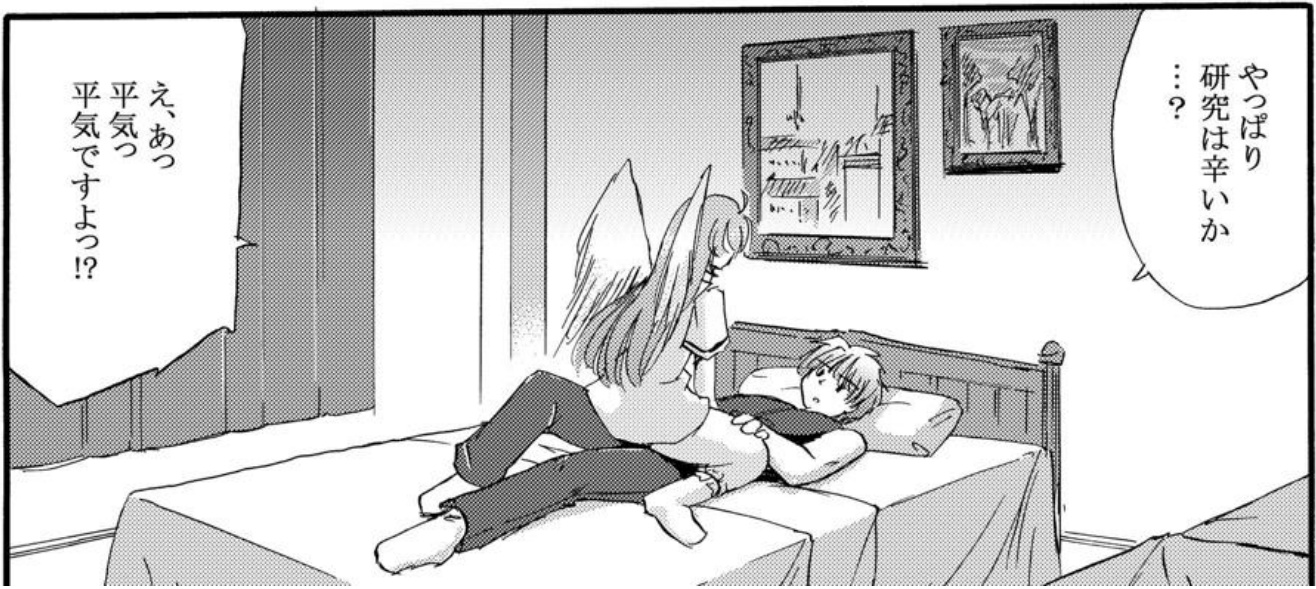




痛いかな？
ティア：



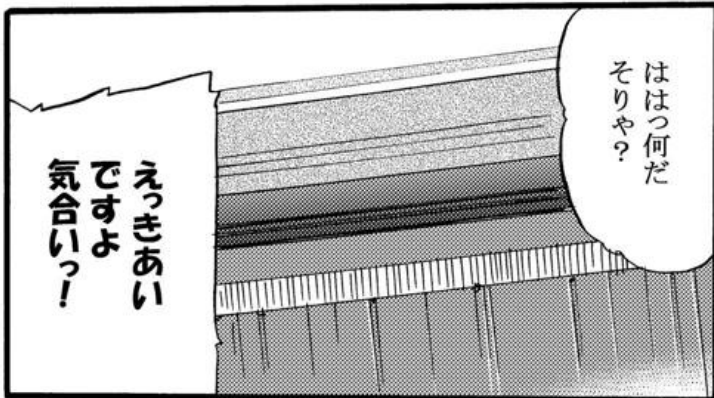
だ、大丈夫です
これくらい
研究に比べたらっ

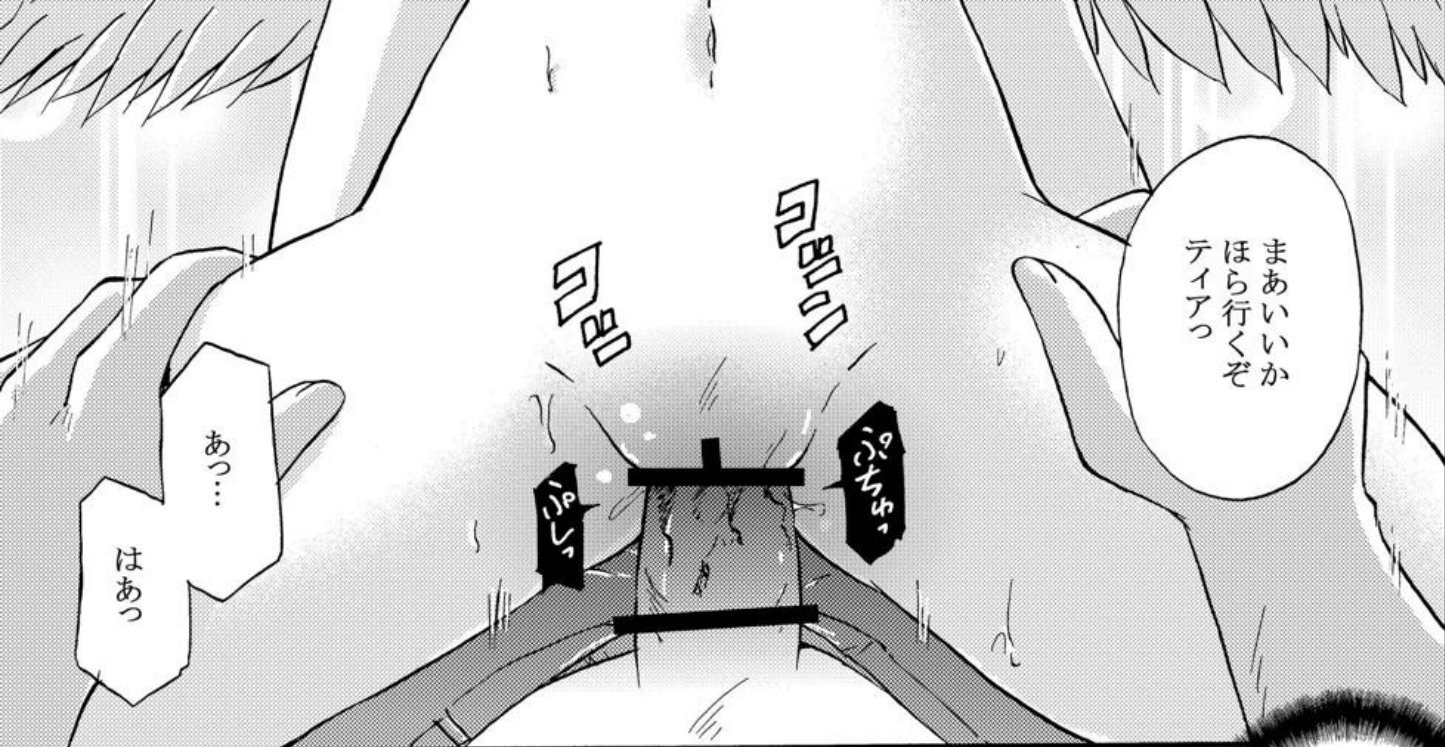


やっぱり
研究は辛いかな？

え、あっ
平気っ
平気ですよっ!?







まあいいか
ほら行くぞ
ティアっ

あっ…

はあっ

ゴゴゴ
ゴゴゴ
ゴゴゴ



あ、もう
ほとんど
痛くない…



感じてきたな
もう少し強く
するぞっ

は…はっ

やっ
やっ



ひゃっ!

フチュッ

フチュッ

ああんっ!

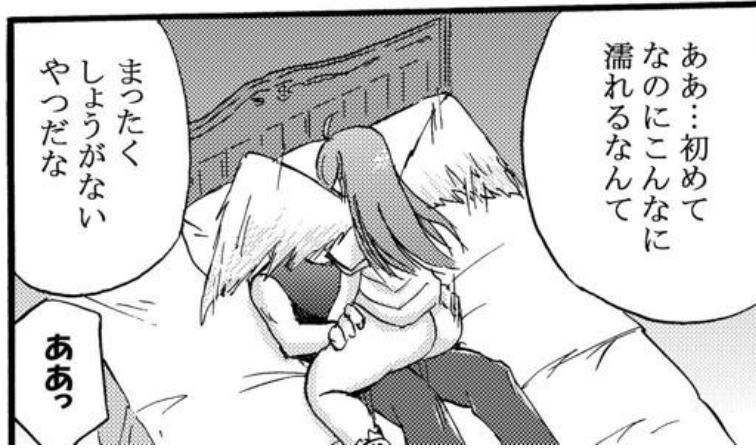


替わりに
だんだん熱く
なってきた…

あんっ

あっ

やっ





ちやうっ

悪い悪い

俺で感じて
くれて嬉しいぞ

んんっ



だっ

だっ

ひ、ひどいです
カイムさんっ

意地悪言わないで
下さ...いっ



ああっ...好きっ

好きです
カイムさんっ

大好き!!



んっ

んんっ

ずぶっ

ずぶっ

ずぶっ

ずぶっ

ずぶっ



いくぞティア
出すぞっ！

はいっ…中に
中に下さいっ
カイルさんの
わたしの中にっ…



ティアっ!!

あっ…カイル…
さ…んっ…

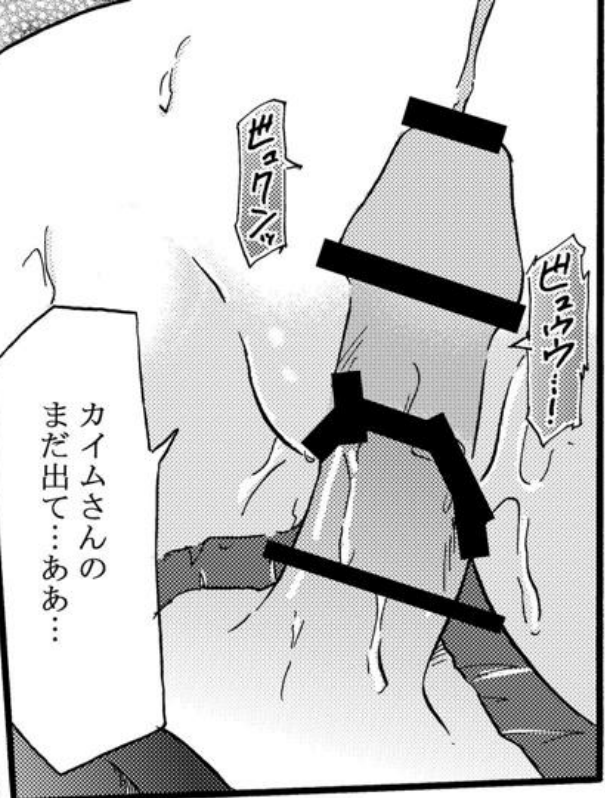
ド
ド
ド
ド



おっと

くっんっ

はあ…



カイクさんの
まだ出て…ああ…

出アツ

出アツ…



よく頑張ったな
ありがとう
ティア

はい…
でも

カイクさんの
わたしの中で
堅いままです…

まだ満足されて
ないんですね
…?

ギクッ



わたしももっと
カイクさんと
気持ちよくなりた
いです…

だからカイクさんも
満足いくまで
して下さいっ!



いいよ
無理するな

無理なんて
してませんよ…



あ…
ふあっ

ああっ



ズッ
ズッ
ズッ
ズッ



どうだ？
気持ち良いか
テイア？

はいっ…気持ち…
良いですっ！

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ



あっあっ
ふあっ

あつ…そこ凄いつ…
ですっ頭の中ビリビリ
言つて…っ



ひゃうっ!!



あ…
あっ



う…くつ
いくぞテイアっ



また出して下さいっ
カイクさんのが
欲しいですっ!

は…はいっ



あっ
うあっ

ひゅっ

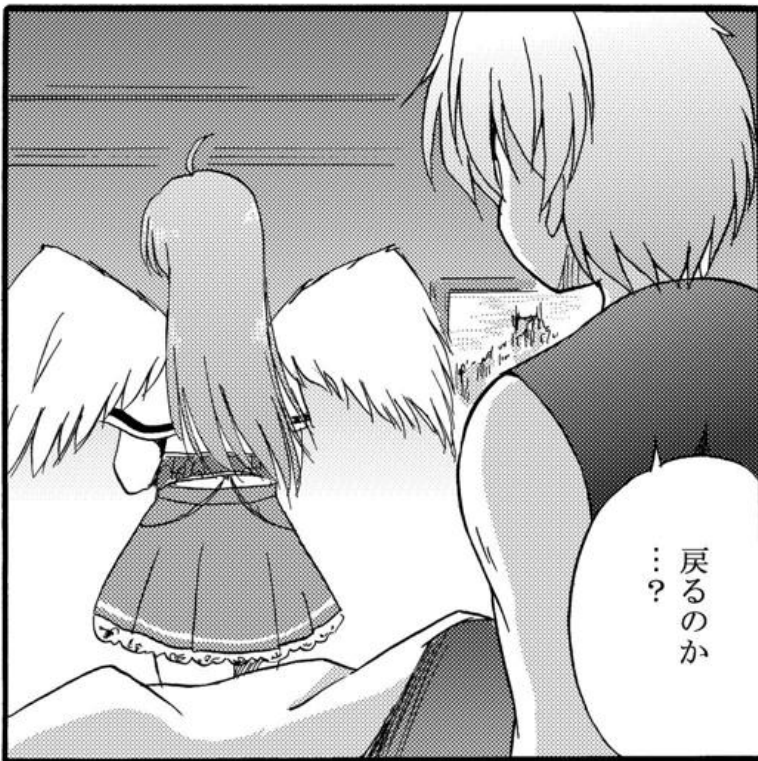
ゴボッ

ゴボッ

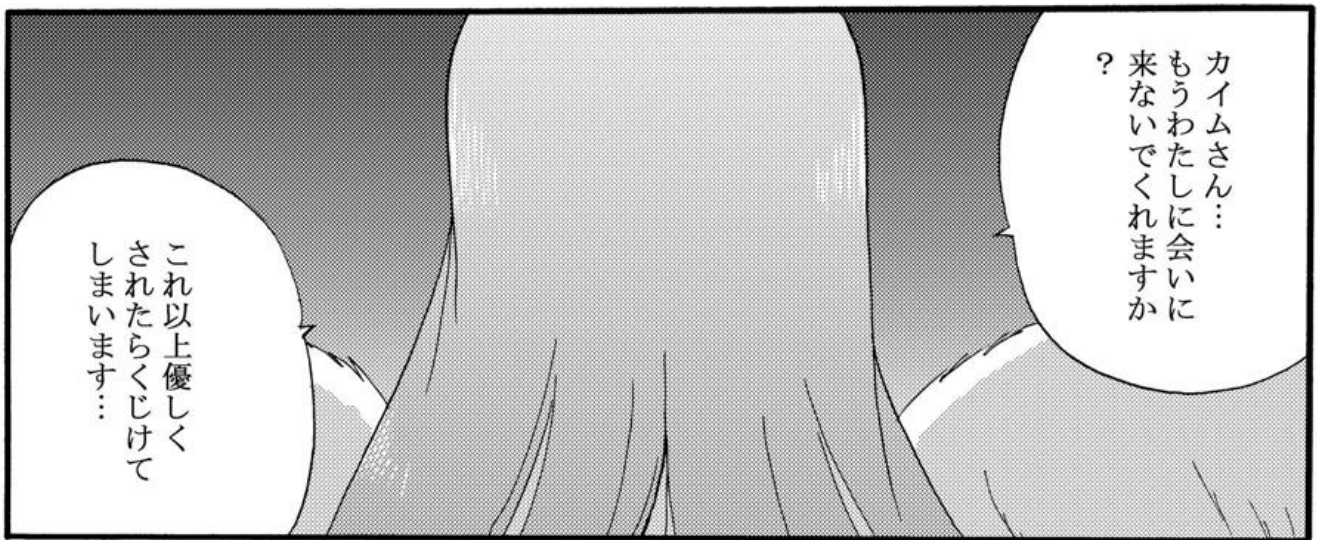
ヒポッ





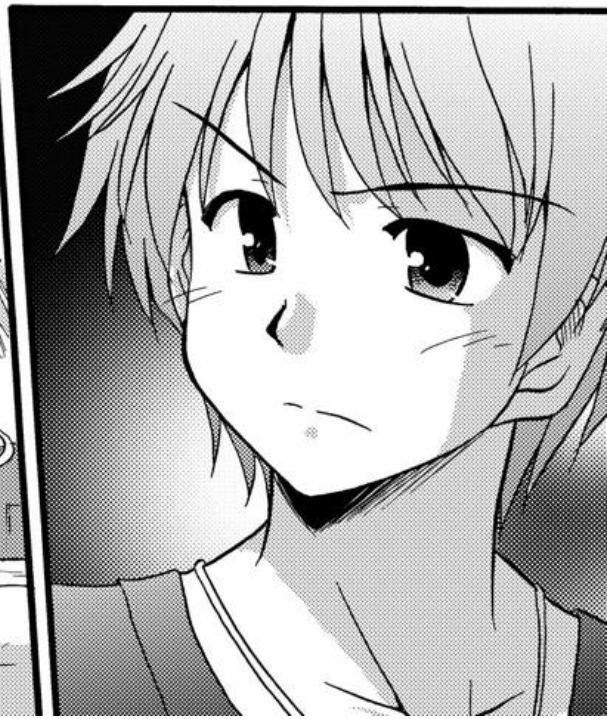
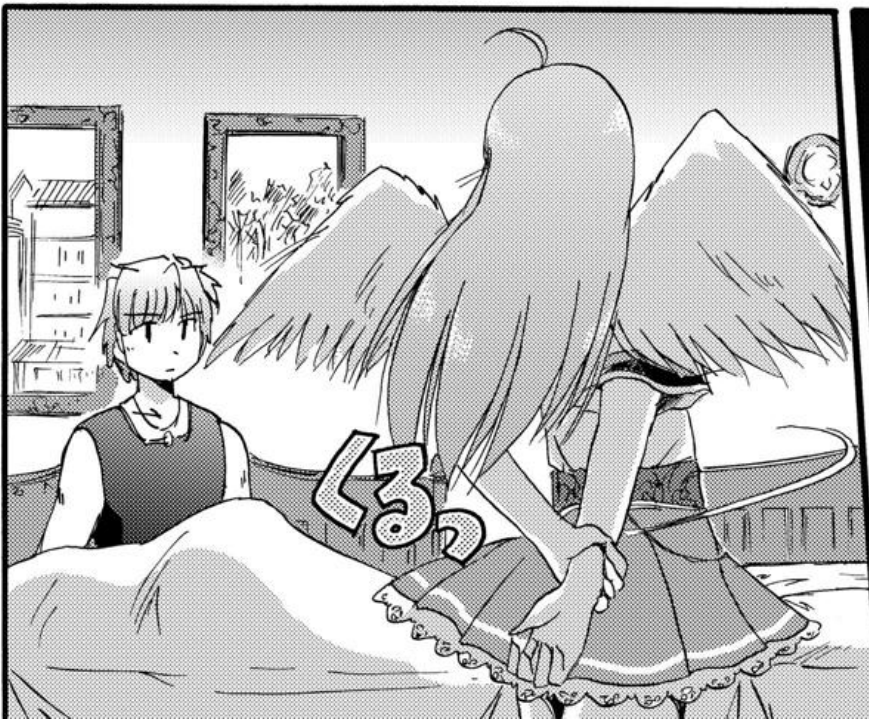


…?
戻るのか




カイクさん…
もうわたしに会いに
来ないでくれますか
？

これ以上優しく
されたくらじけて
しまいます…






わたしカイクさんが
大好きですっ



カイクさんの
判断が正しいのは
みんな知ってます…

だからご自分を
責めないで下さいっ

だから守りたい
んです！



そうだ俺の
判断は正しい…
だがなんだ
この違和感は…？

正しいならば
何故自分を責める
必要があるんだ
!?

いやそんな事は
わかってる
ティアを犠牲に
するからだっ

だがティアが
死ぬ事は正しい
事なんだっ

俺は今何を
考えた…？



ティアが死ぬのが
正しい事だと…？
そんな…



なんだって
…？


な…



そんな
バカな話
あるかつ!?


カイク
さんっ!?






俺を取るか
ノーヴァス・アイテルを
取るかだ
簡単な計算だろう？

ティアが
ここで俺を殺す
のも正しい事の
はずだ!!



そんな…
出来ませんっ

出来る訳ない
じゃないですか…っ



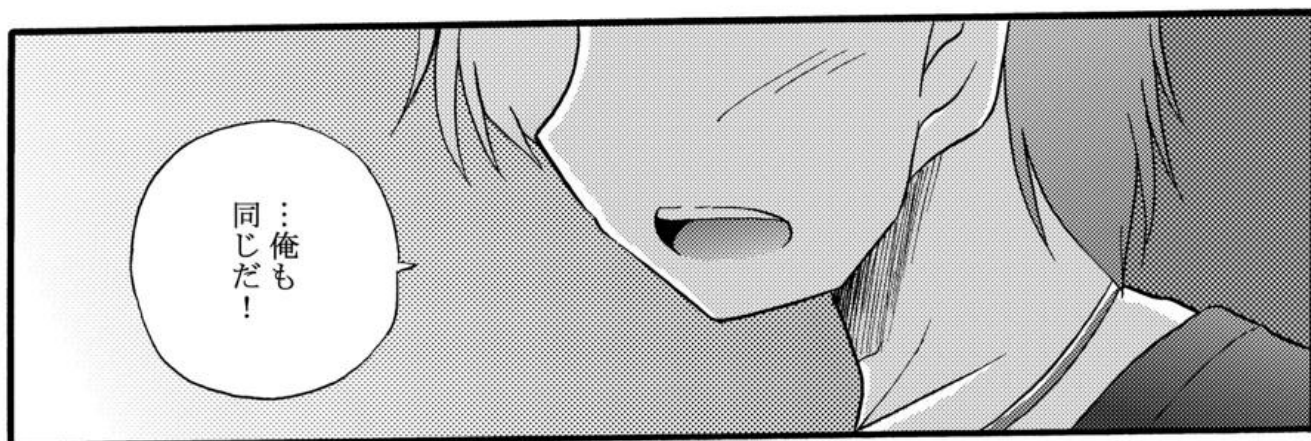
俺を殺さなければ
みんな死ぬぞ
それでもいいのか
？

出来ま
せん!!



どうして…
どうしてそんな事
言うんですか？

わたしが守りたいのは
カイクさんなんですっ
カイクさんのいる
ノーヴァス・アイテル
なんですよ…っ



…俺も
同じだ！



今ここでお前を
行かせると言うのは
つまりお前を
殺す事だ

お前に俺が
殺せない様に
俺もお前は
殺せない…



えっ…？



やっとわかった…
俺はティアを犠牲に
してまで生きたく
はないっ

俺にとって
一番大切なのは
お前なんだ！



だから最期
まで俺の側に
居てくれっ!!

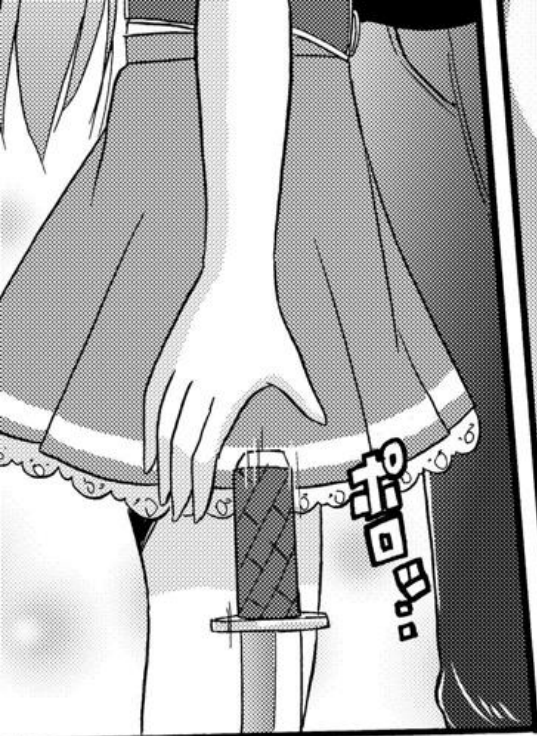
カイクムさん
…



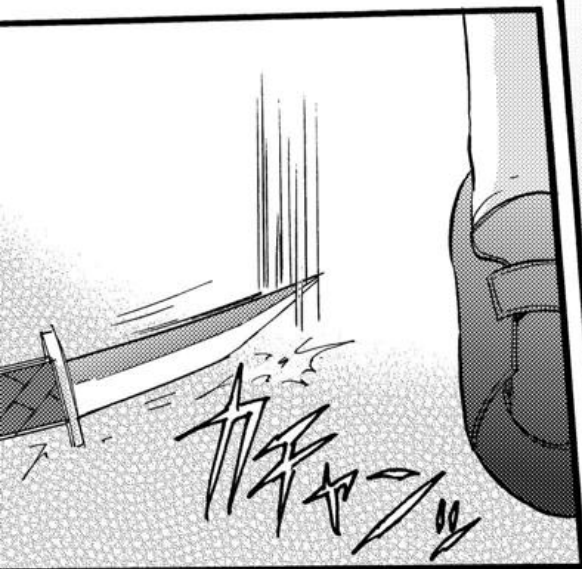
でもっ
でもっ…

このままじゃ
みんなが…

言っただろ
行きたければ
俺を殺せ…



お回



カキヤン



俺はもう

死ぬまで
お前を離さ
ないっ

カイクさん
わたしは悪い
人間です…

わたし本当は
ずっとカイクさんに
止めて欲しかった…





みんな
死んじゃうって
わかってるのにっ

それでもカイクムさんを
忘れたくないっ
一緒に居たいって
思っていたんですっ！



他の奴らには
後で俺から謝って
おくから心配
するなっ



良く今まで
我慢したな

大丈夫
止めたのは俺だ
お前は何も
悪くないっ



まっルキウスが
他の方法でも
探して何とか
してくれるのが
一番良いけどなっ

！



とにかく早く逃げるぞ

ダメですっ



待て待てっ
今のは冗談だっ

そんな方法ある訳ないだろう!?



そ、それです
カイクムさんっ!!

それ?



ルキウスさんに頼んで他の方法を
探してもらいましようっ!



ダメだ
危険すぎる

いざとなれば
あいつは力づくでも
研究を続けようとする
はずだっ



わたしが逃げたら
ルキウスさんは
わたしを探しますっ

そんな無駄な
時間使わせるより
ずっと良いはずです!



それでも
ですっ…



自分のわがままで
世界を危険に
さらすのに
ただ逃げるなんて
出来ません

少しでも可能性が
あるならやる
べきです！



お前の気持ちは
わかる！
だがそんな話は
通じないっ

あいつは一番
可能性の高い
方法をとるっ
ただそれだけだ！

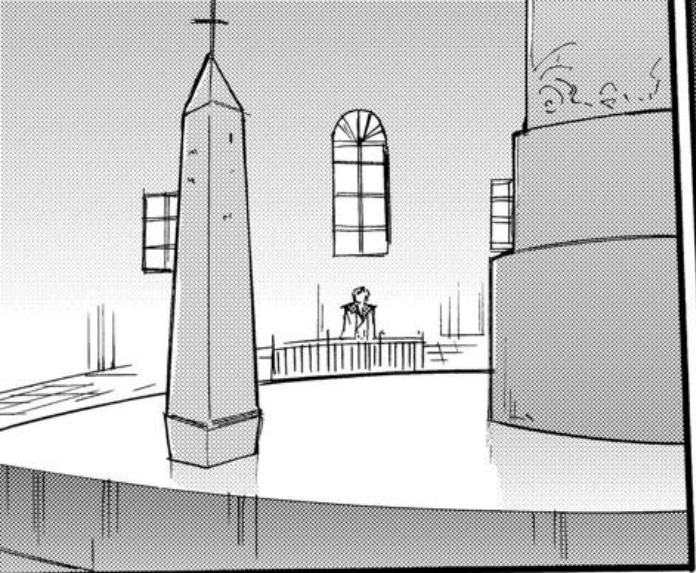


お願いがあります
カイクさん…



何っ？

それなら
わたしを使う意味が
無くなれば良いん
です！



もうほとんど
時間がない…

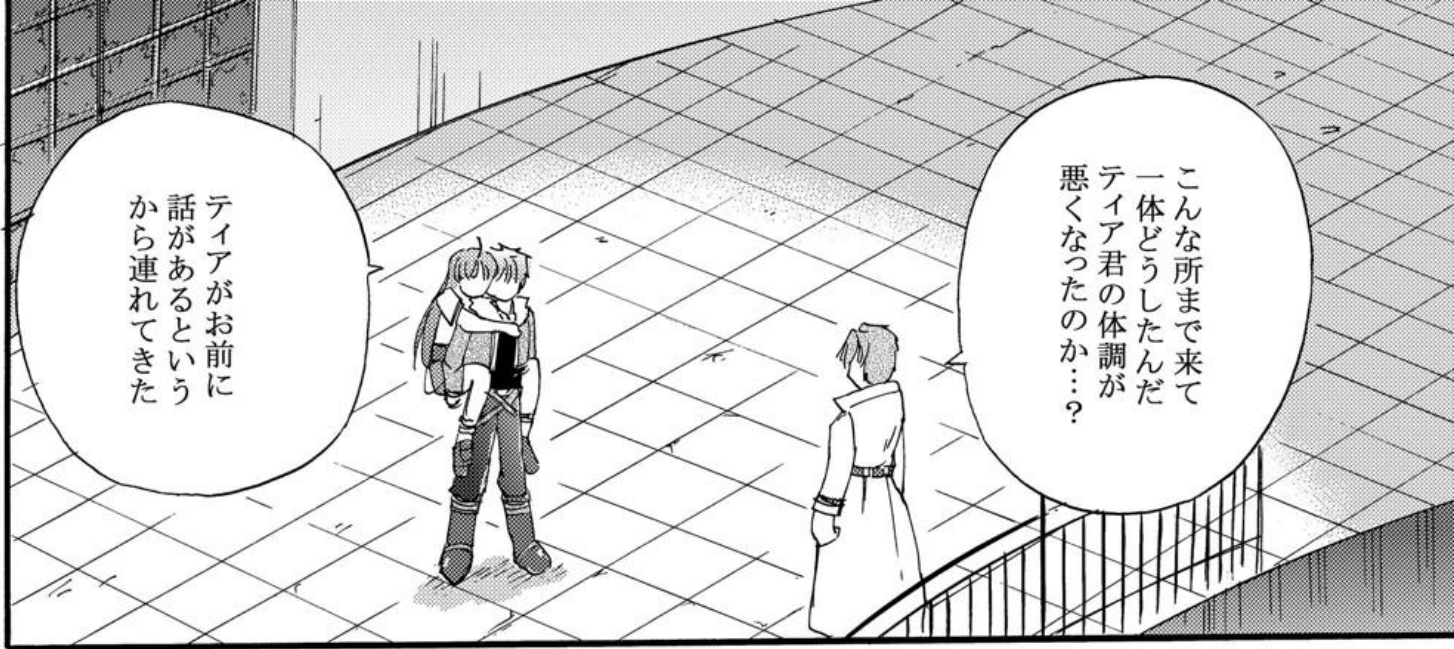
多少強引な手を
使っても
ティア君を覚醒
させるしか…



カイクム！

ここにいたか
ルキウス





ティアがお前に話があるというから連れてきた

こんな所まで来て一体どうしたんだティア君の体調が悪くなったのか…？



はい…降ろして下さい…

ティア



何？



だから他の方法で世界を救って下さいっ

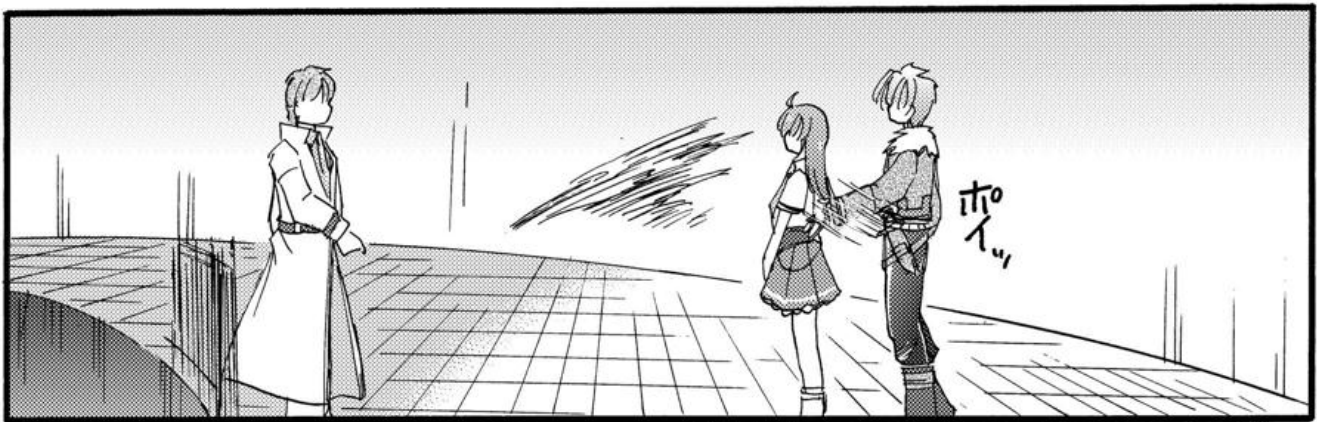
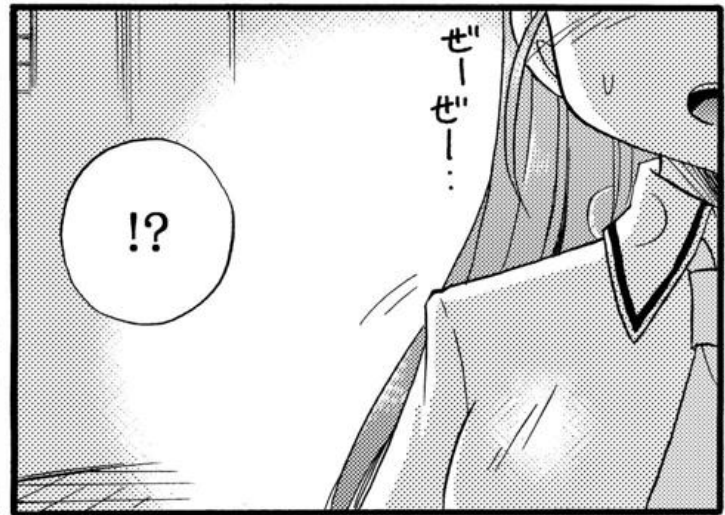
わたしはもう…研究には協力しません…



ルキウスさん…

は…!

は…!







これが俺達の
答えだ！

……

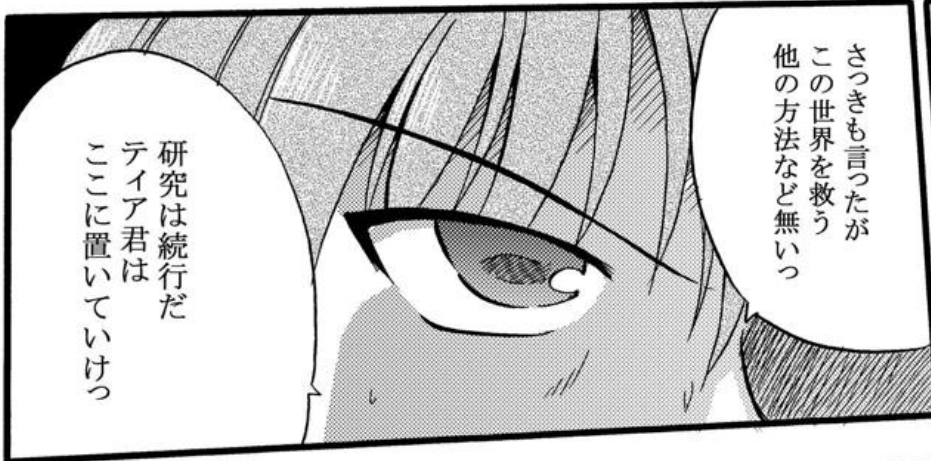


随分と勝手な
言い草だな…



そう言う訳
なんでな
ティアは連れて
いくぞ

早くちゃんと
した医者
に診せたい
んでな



研究は続行だ
ティア君は
ここに置いていけ


さっきも言ったが
この世界を救う
他の方法など無い



決まっているっ
力づくで返して
もらうまでっ

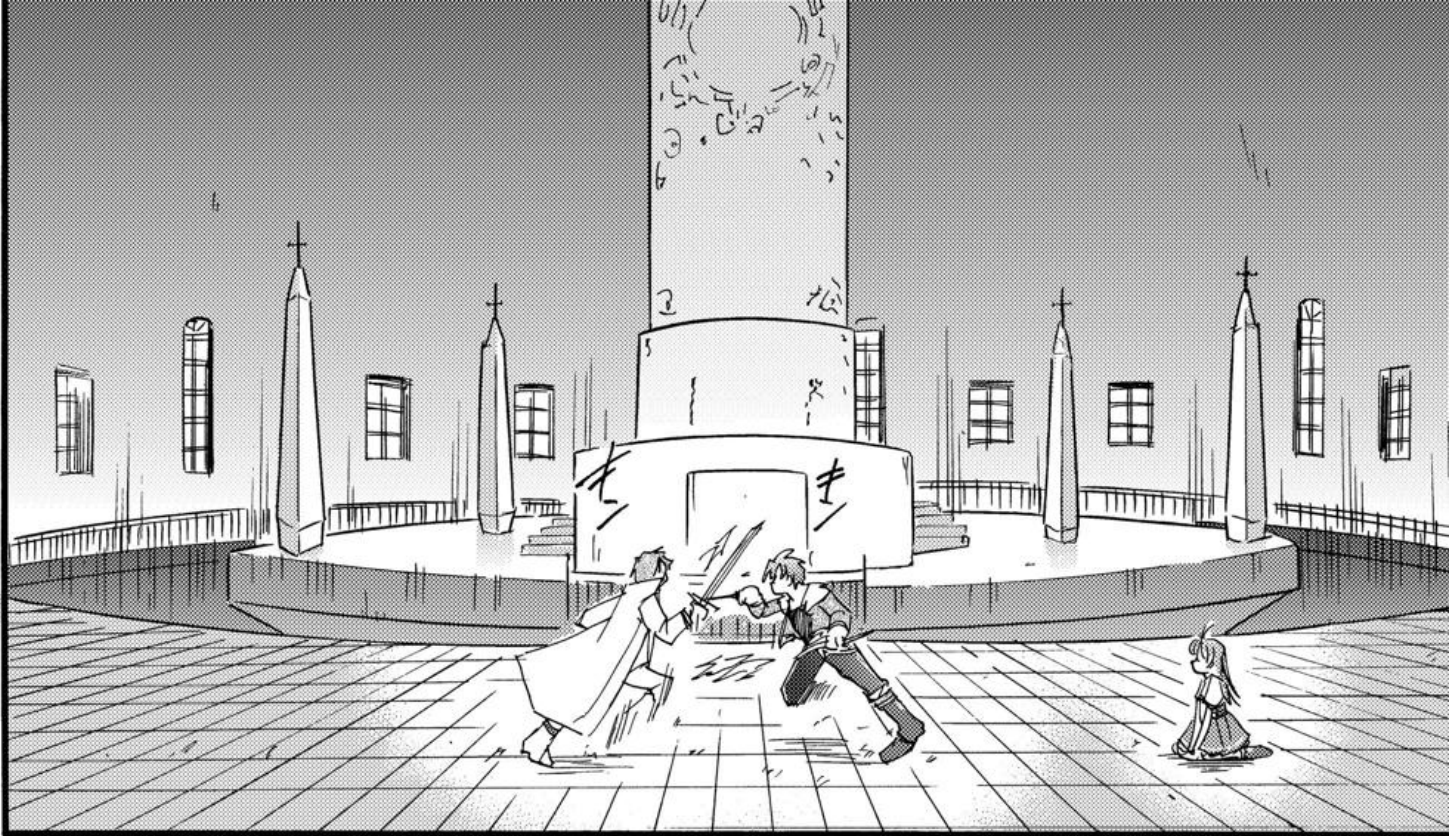


断ると
言ったら？



その名前で
私を呼ぶなっ
!

やはりお前とは戦う
運命だったのかもな…
決着を付けてやる
アイム!





私はこの国の
全てを背負って
いるのだっ…

私はここに来る前に
政変を起こし
この国の全権を
掌握した…

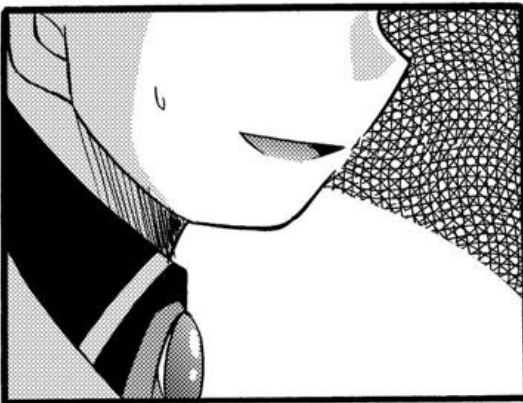


カイクムさん



待てっ！

行くぞ
ティア



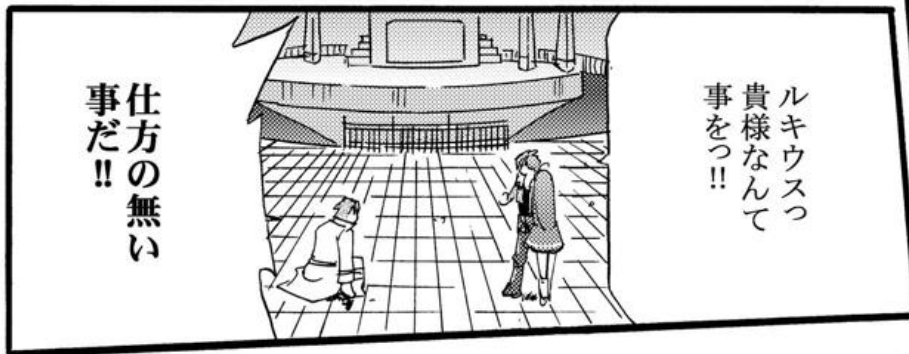
な…なんだと
リシアは…

リシアは
どうした!?



反乱軍に降伏する
などと言い出した
のでな…

死んで
頂いたよ…



仕方の無い
事だ!!

ルキウスつ
貴様なんて
事をつ!!



……

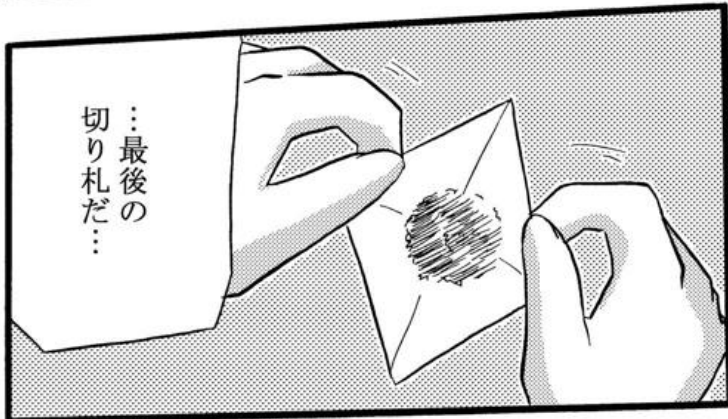


一人や二人の命で
何万もの命が
救われるのだ!

私は間違つた事など
していない!!



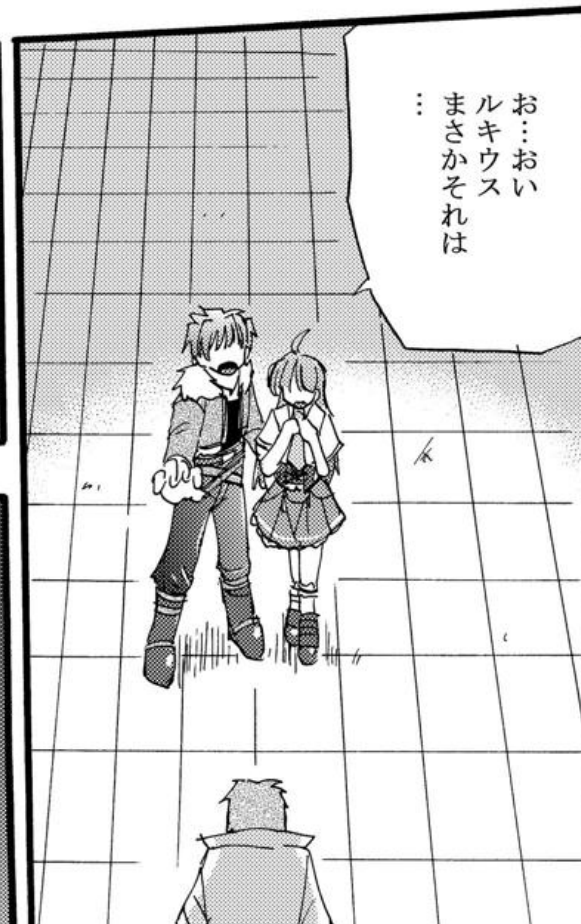
そしてそれは
私の命として
例外ではない……



……最後の
切り札だ……



サラサラ



お……おい
ルキウス
まさかそれは



そ…そんな
まさか…

死ぬ気か
ルキウス
…?



私に万一の事が
あっても
システイナが指揮を
取れるようにしてある
…

何の問題も
無い…

ここで一番
問題なのは…



な…っ

!?



カイク
さん!!

ぐああつ

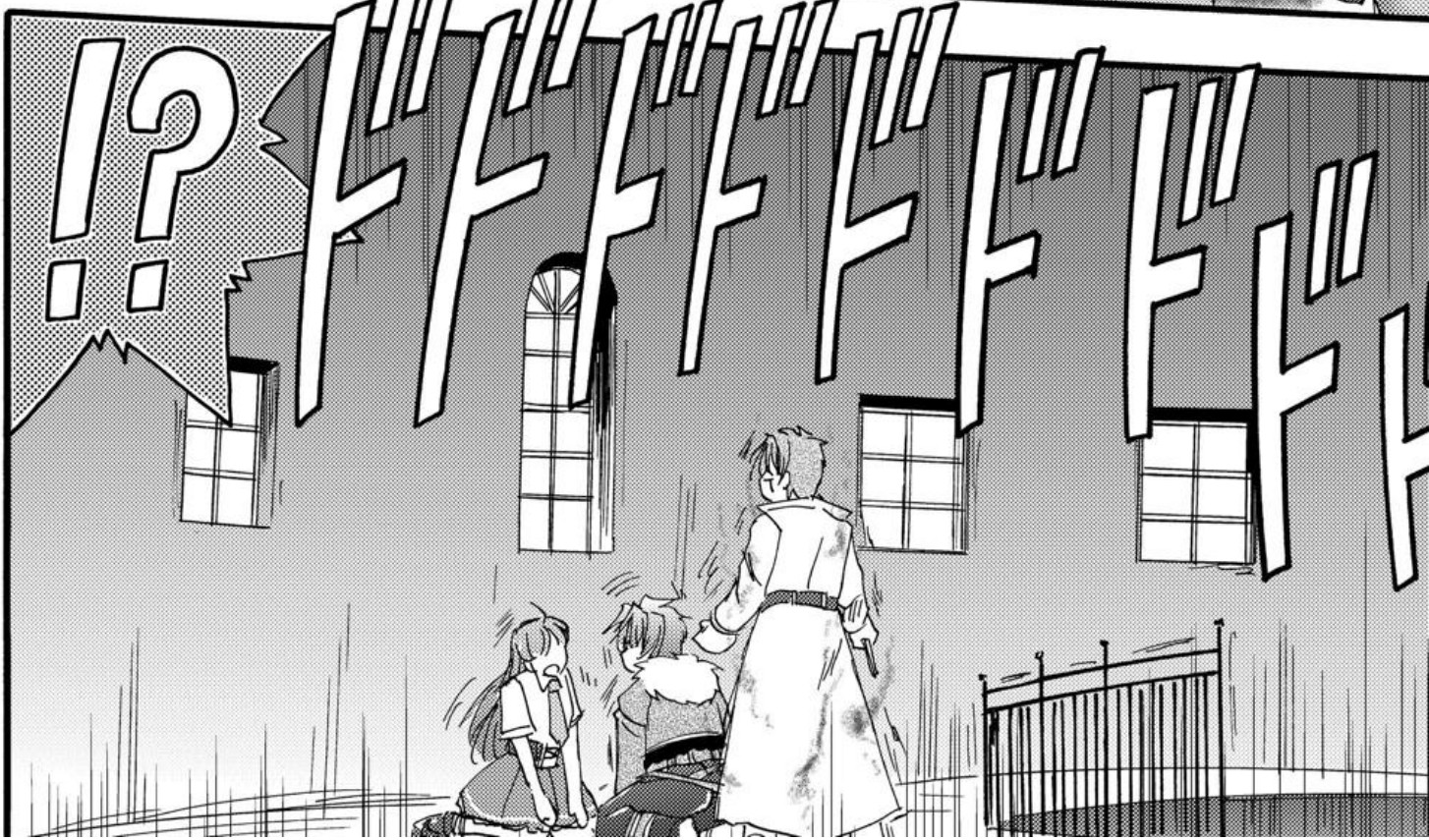


甘く見て
いたっ…!

しまった…
まさかコイツが
命を賭けて
くるとは…

かほろ

我々がティア君を
失ってしまう事だつ





違う雲が上がって
るんじゃないかって
こつちが落ちて
るんだ…!!



な…なんだ?
解放の予定は
無かったはず
だが…



あ…雲が
上に…?



もう天使の
力は残って
いないっ…!!



ふふ…この国にも
私にも残された
時間は少ないようだ

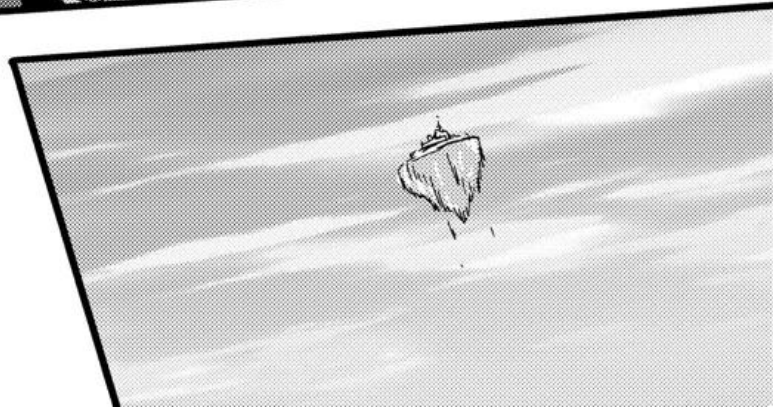
ゴッ

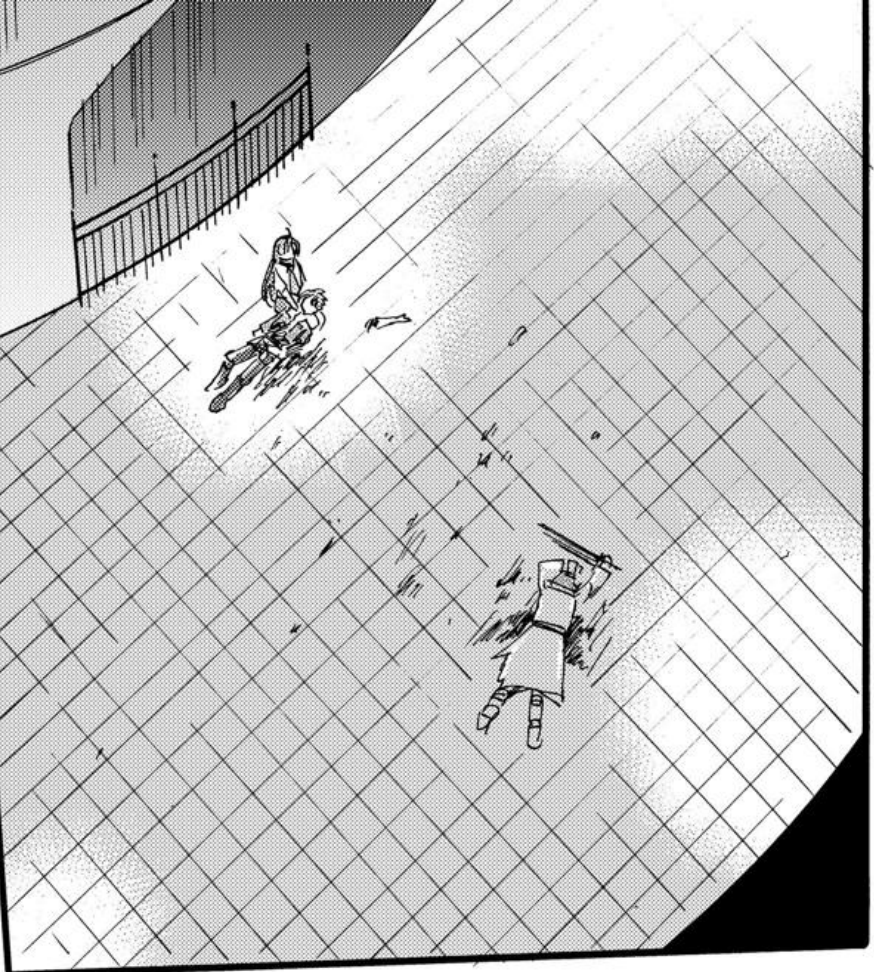


ティア君を
返してもらおうぞ
カイク!!



させる
かよっ!!





最初に不意打ち
喰らってなきや...



ごめんなさい
カイクさん...



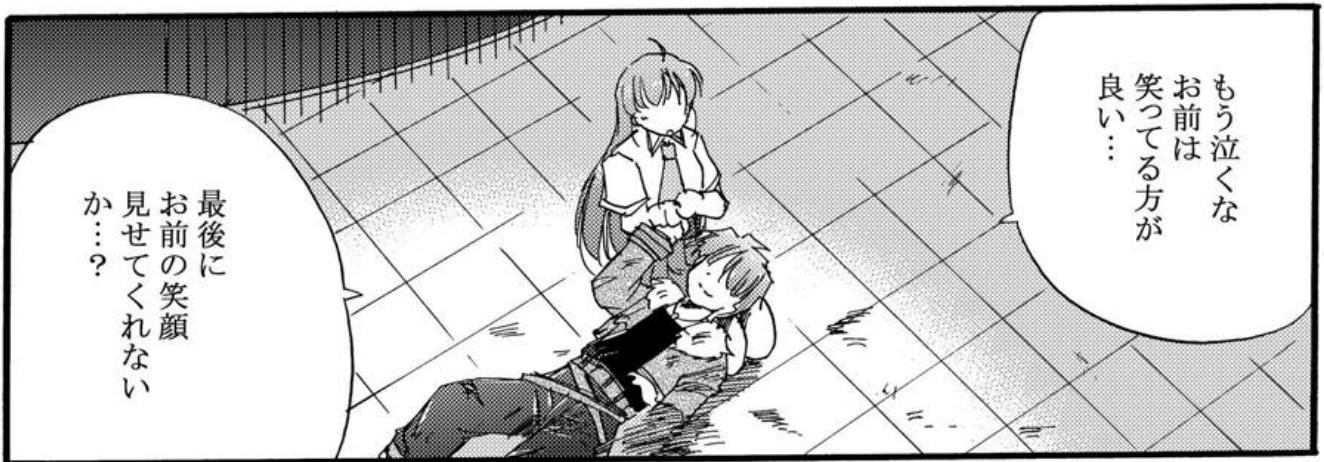
そ、そんな
あれはわたしが…

俺の方こそ
羽切つちまって
悪かったな…
まだ痛むだろ？

ポロポロ



気にするな
ただ逃げ回る
よりずっと
良かったさ…



もう泣くな
お前は
笑ってる方が
良い…

最後に
お前の笑顔
見せてくれない
か…？



えっ…！



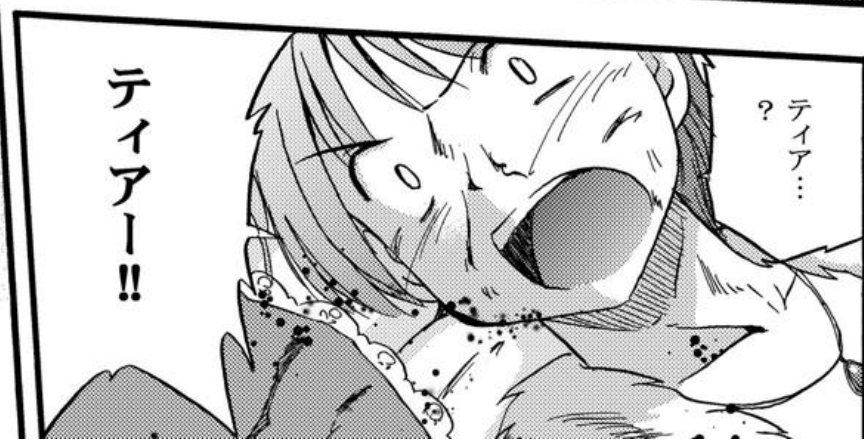
メ…！

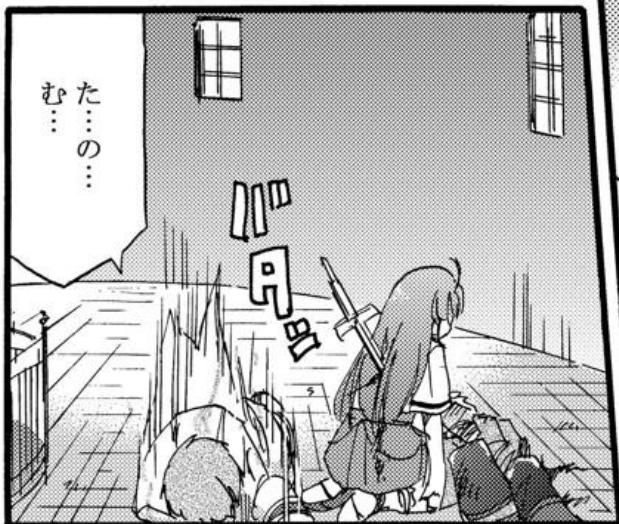


最後まで守って
やれなくて
すまないな…



ダメです
カイクさんっ
まだ死んじや
ダ…





た…の…
む…



覚醒してくれ
ティア君…

そしてノーヴァス・
アイテルを救って
くれ…



ティアっ
しっかりしろっ！

ティア
ー！！



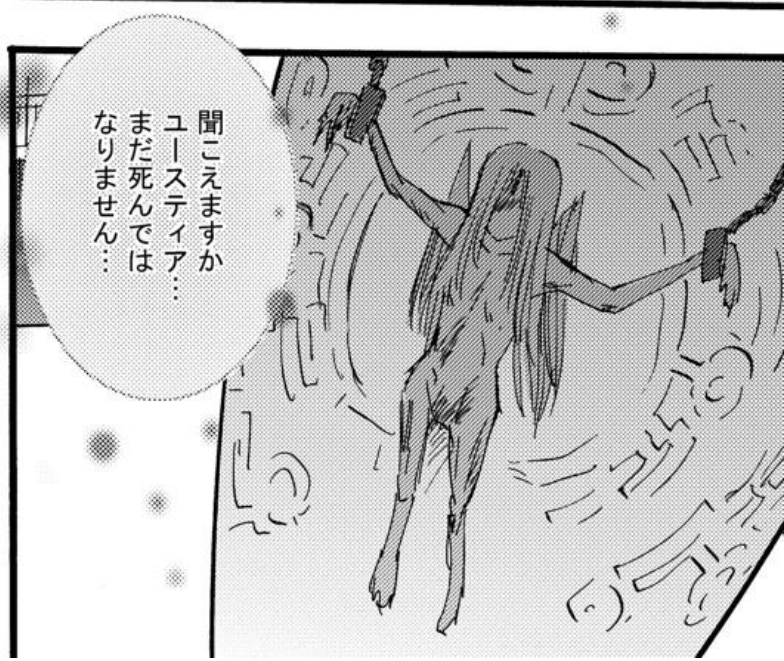
あなたには
まだやることが
あります…

今こそ覚醒するの
です…そして
私の替わりに…



…スティア…
ユースティア…

ピッ？



聞こえますか
ユースティア…
まだ死んでは
なりません…



人間達に
復讐を！

ただ殺す
だけでなく
地獄の苦しみを
与えるのです！





殺す事だった
なんて…

やっとわかった使命が
人間を…カイクさんや
わたしの大切な人達を…

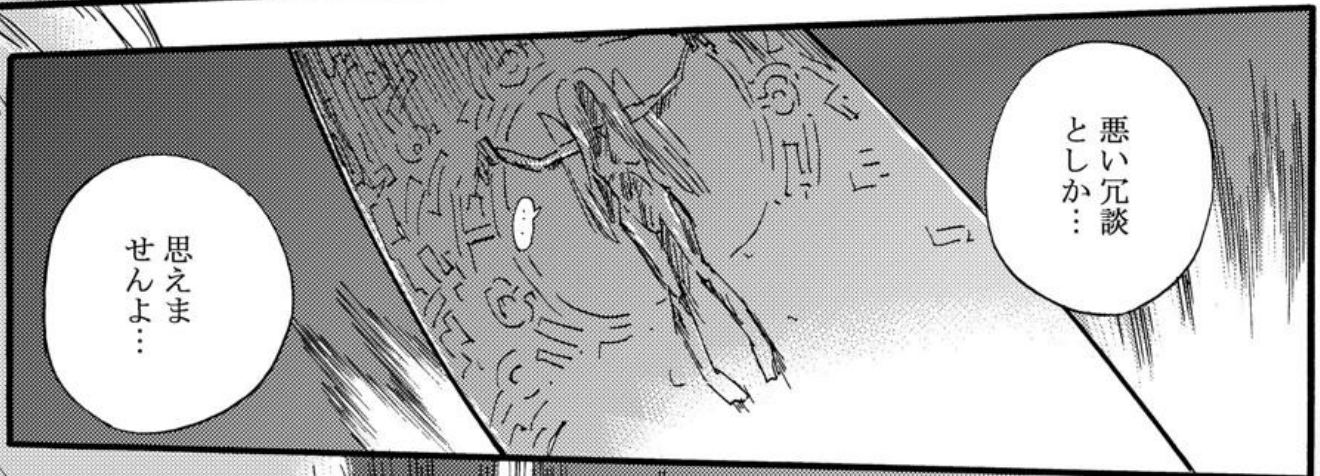


ホントに
冗談みたいな
話ですよ…



ずっとわたしには
使命があるって
言われて…

それを頼りに
今まで生きて来た
っていうのに…



悪い冗談
としか…

思えま
せんよ…



ごめんなさい
カイクさん…

わたしやっぱり
ここで一緒に
死ぬ事は出来
ません…



ティア…



正直研究には
仕方なく協力
してた部分も
ありました…

心の奥では
カイクさんに
助けて欲しい…
一緒にいたいって
思ってたんです



だからカイクさんが
わたしを止めてくれて

死ぬまで離さない
って言ってくれて…

いけない事なのに
わたしとても
嬉しかった…



だから今なら
心から言えます…

義務でもなく…
使命でもなく…



そして…

命懸けで
わたしを守って
くれた…



ティア…
もう良いっ…

もう良い
んだ…!!

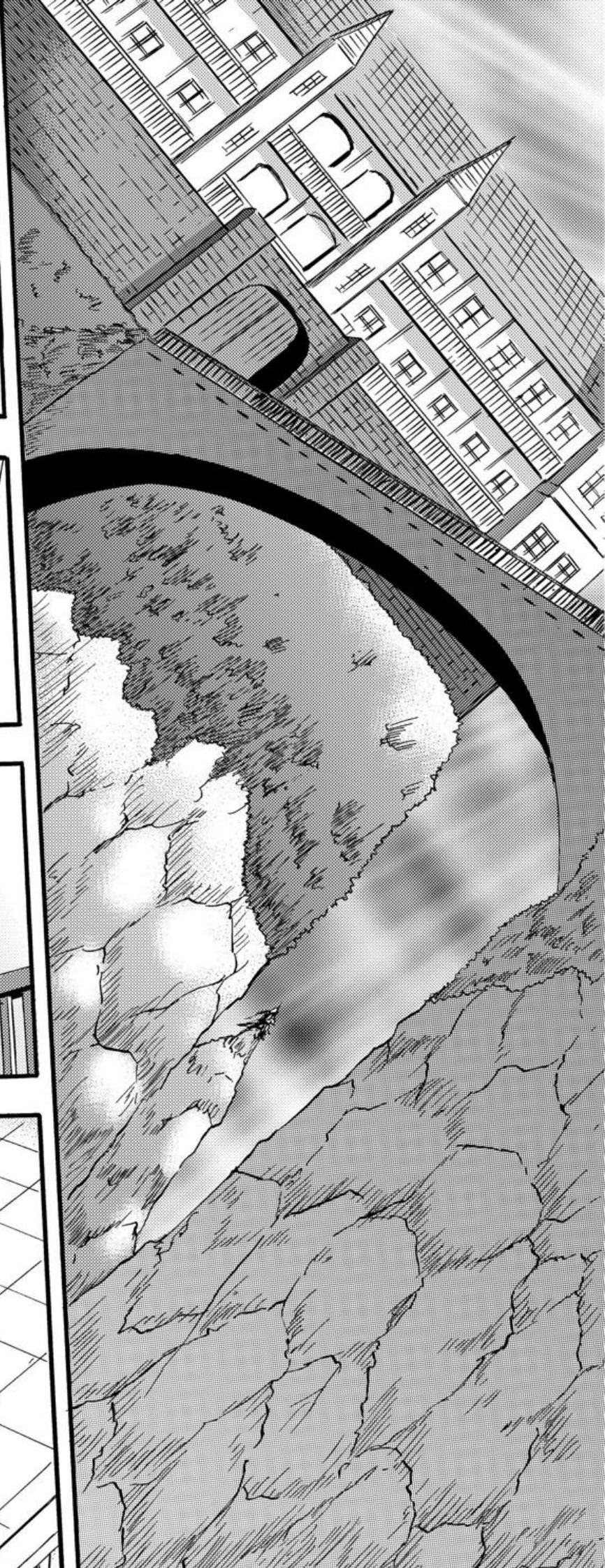
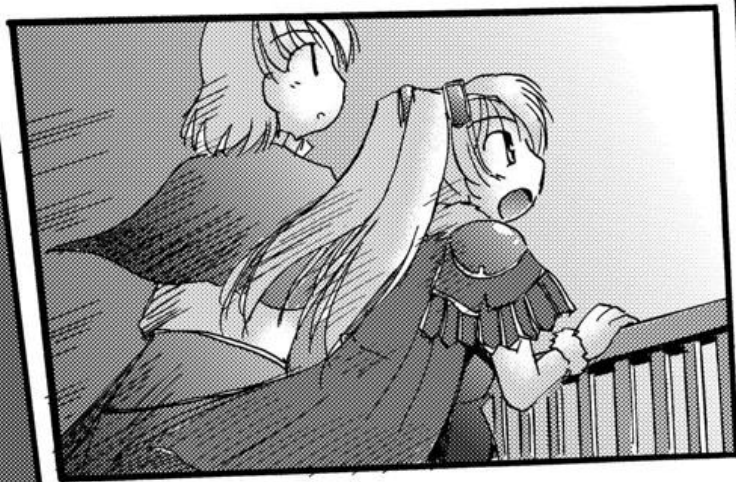
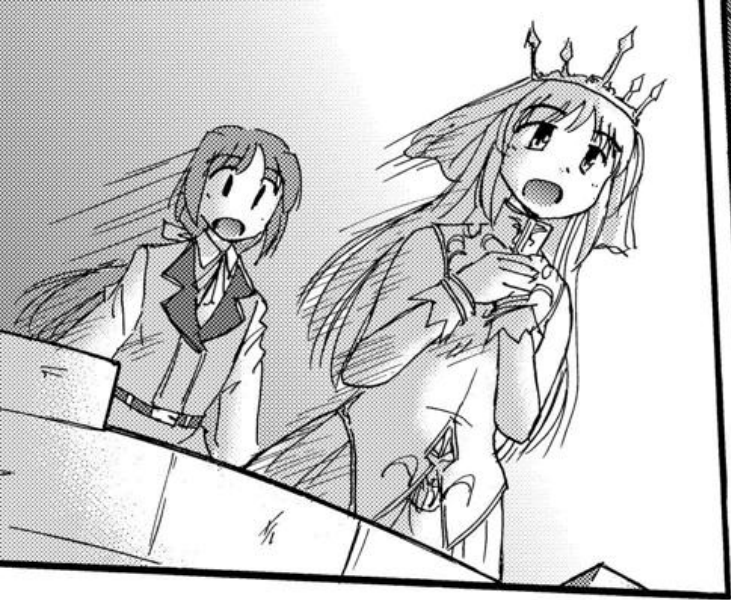
カイクさん…

わたしは
あなたを
守りたいです！

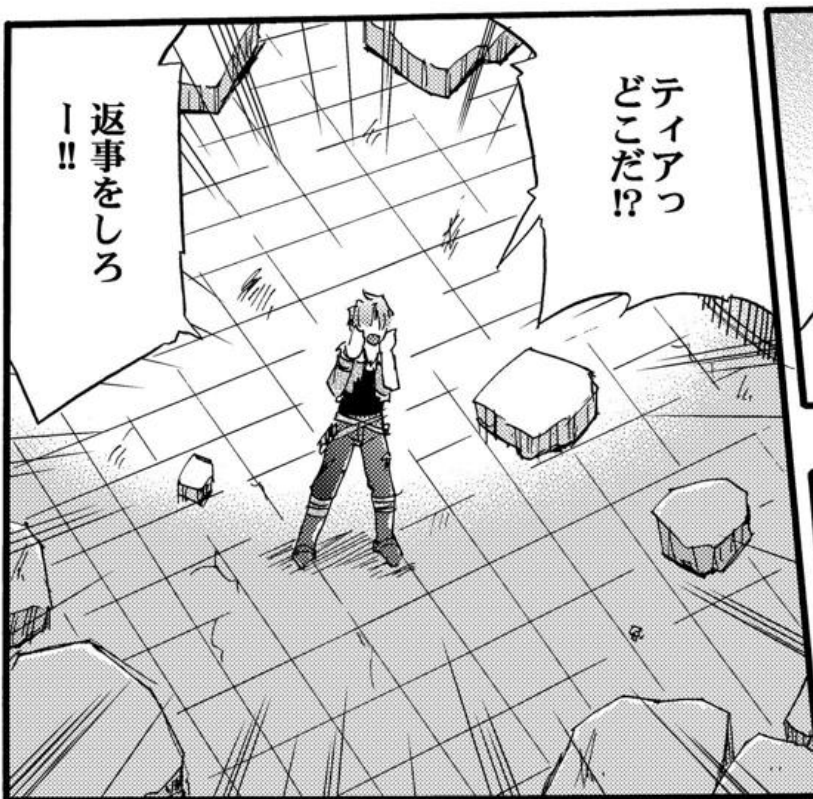
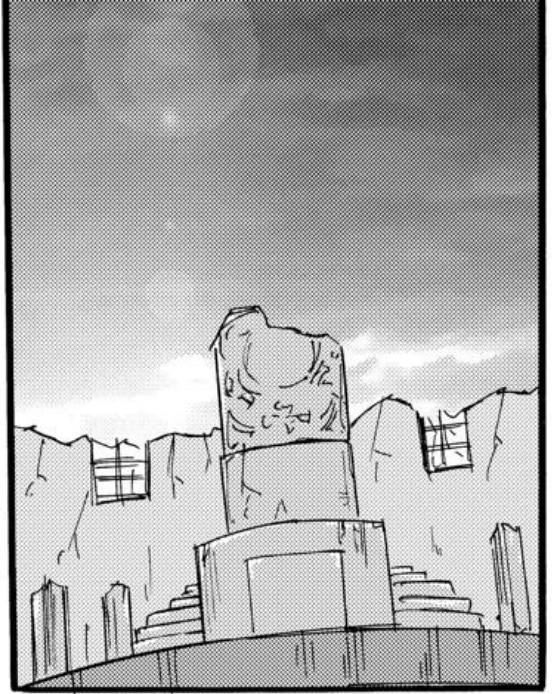
駄目だティアッ
俺は今更そんな事
望んじやない！

俺はただ
お前と一緒に
居たいだけなんだ！











ティアア!!



お前一体
何をしたんだ?

それにしても
ノーヴァス・アイテルは
どうなったんだ?



ティアアッ
しっかり
しろ!

ティアア!!



あ:
カイクさん...?

良かった:
無事だったか



地上を浄化
してから
ゆつくりと
降下させました

もうノーヴァス・
アイテルは
空を飛んで
いません



ただど
カイクさんが
わたしの事を
諦めないでくれた
から



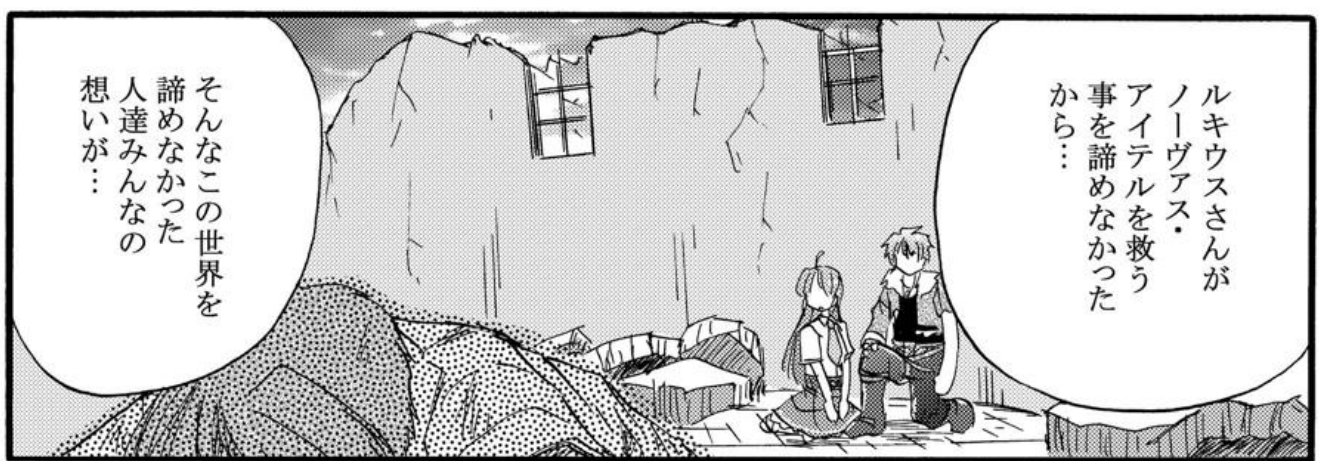
全く心配かけ
やがって…
あんな事言うから
俺はてつきり…

ごめんなさい
カイクさん
…



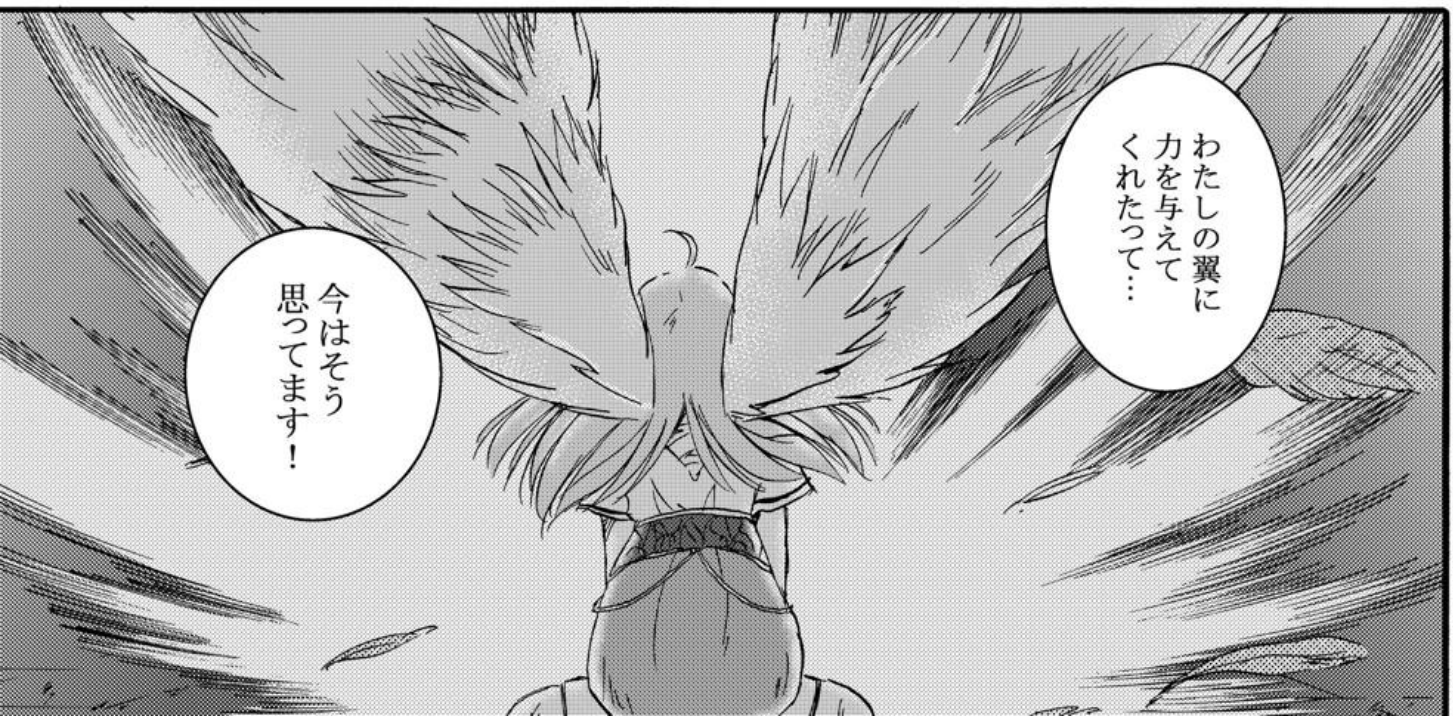
だけどわたしが
無事で済む
保証なんて
無かったから…

戻って来られるか
どうかは賭け
だったんです…



ルキウスさんが
ノーヴァス・
アイテルを救う
事を諦めなかつた
から…

そんなこの世界を
諦めなかつた
人達みんなの
想いが…



わたしの翼に
力を与えて
くれたって…

今はそう
思ってます！



「リシアルートまでが素晴らしい出来だったのでグランドフィナーレであるティアルートを期待に胸を膨らませつつプレイしたら見たくない物を散々見せられたあげくにティア消滅というエンディングを見せられ最悪の気分させられた皆さんごきげんよう、涼宮和貴です。」

というのが「穢翼のユースティア」に対する私の嘘偽りのない感想です。
どれくらい最悪かというそのままアンインストールしてソフト売りに行こうか真剣に悩んだくらい。

ただリシアルートまでは本当に面白くてグラフィックなどもものすごく頑張っていてそれだけで全てを無かったことにしてしまうのはあまりにもあんまりだし「コレを何とかしないと俺がオーガスト同人やってきた意味なんて何も無くなっちゃうよっ」と思い直してこの本が出るに至った訳です。

そもそもプレイ前から「ティアが命と引き替えに世界を救う」と言う展開は真っ先に予想が付いて他のメーカーならともかくオーガスト的にこれはやって欲しくないと思っていた事でした。百歩譲ってその展開がアリだったとしてもせめて感動で泣かせて欲しかったなと。

この話を聞いて良く引き合いに出されるのが同じように主人公が自分と引き替えに世界のシステムをぶち壊した「魔法少女まどか☆マギカ」な訳ですがアレは大好きでBDも買っていたりします。じゃあ「穢翼のユースティア」と何が違うかって言うと

「ほむほむは超頑張ったけどカイクさんは寝てただけ」

と言うところですね。最後にカイクさんがティアを選んだように見えるけど完全にチェックメイトで終わってる所にエリスが「こっちに置いたら良かったんじゃない？」って言っただけの話なのでもう遅いです終わってます。結局の所カイクとティアは心の深いところでは繋がってないんですよね。

と言う訳でティアを連れ出す最後のチャンスだったと思われる初Hのシーンからオリジナルの話を展開させてみました。全てを回収するのは無理なのでもう細かいところは無視して見せたいシーンに持っていくように描いています。

コレを描いてどうにかなる訳でもないけど自分と同じような想いをした人の気持ちが少しでも晴れればと思います。ぶっちゃけ制作陣にもそう言う人が…ケツケツ。まあそれは言わない方が良いでしょう。

あとどうしてもカイクさんに目がいきがちですけどティアも「穢翼のユースティア」を語る為のアイテムとして用意されてしまっているのでもうほぼ全てにおいて受け身だったのも良くないなと。その辺は人気投票でトップ争いに絡めなかった辺りに出ていますよね。可愛いし良い娘だけど世界を救うには荷が重すぎて自分が消えるしかなかったのかな。と思うと不憫で何とかしてやりたくありません？

そう言えばこのマンガのリシアはちゃんと生きてますからねっ。
ついでにシスティナも生き残りです(笑)。

他のルートの感想はまた機会があればと言うことで。
ホントにリシアルートは面白かった。メルトダウンが回避出来ないのが口惜しいが。ラヴィリア & コレットも良かった。最後二人とも助かってホントに良かった。ところで最初に辿り着いたエンディングはラヴィでした。ここに引っかかる人は結構多かったようです。あまりの突然の展開にマジびびった。カイクさん超別人になるし(笑)。

結局一番好きなキャラはアイリスのままです。次はカイクさんがアイリスを身請けして超可愛がる話を描きたいと思います。オンリーか冬かどっちかです。アイリスが好きすぎて生辛。

最後に私の言葉ではないけど「穢翼のユースティア」に向けたもつともふさわしいと思われる言葉を

「大好きだけど、大嫌い。」

それではまた。

2011/8/14 涼宮和貴

SPECIAL THANKS TO

ういんぐ
えんどー
近江千竜
永倉大
ふあな
もりたとおる
(敬称略)



LIFT THE WINGS

発行 Cool Palace
発行人 涼宮和貴
発行日 2011年8月14日
印刷 (株) 緑陽社 様
URL : <http://www114.sakura.ne.jp/~suzumiya/>
E:mail : suzumiya@www114.sakura.ne.jp

※本書の18歳未満の方の購読及び
営利目的の転売、転載等を禁じます。



横翼のユースティア FANBOOK

LIFT THE WINGS

Cool Palace August 2011

